

令和4年度 第1回伊勢原市地域公共交通協議会 会議録

〔事務局〕 都市部都市政策課

〔開催日時〕 令和4年7月22日（金）

〔開催場所〕 書面開催

〔出席者〕

（委員） 藤井会長、宍戸副会長、小堤委員、金子委員、佐藤委員、小川委員、鶴淵委員、加倉井委員、辻委員、植松委員、大川委員、佐伯委員、福永委員、市川委員、三橋委員、後藤委員、最上委員、細野委員、菊本委員、

（事務局） 重田都市部長、吉田参事（兼）課長、大園主幹（兼）係長 他1名

〔公開の可否〕 公開

〔傍聴者〕 書面会議につき、なし

〔議案〕

【第1号議案】 令和4年度事業計画（案）について
書面審議の結果、原案どおり承認されました。

【報告事項】 1 伊勢原市地域公共交通網形成計画の達成状況について
2 伊勢原市地域公共交通に関する市民アンケートについて
3 次期地域公共交通計画の策定について

〔送付資料〕

資料1 令和4年度第1回伊勢原市地域公共交通協議会議題資料

別紙1 令和4年度第1回伊勢原市地域公共交通協議会書面開催について

別紙2 表決書

参考 伊勢原市地域公共交通協議会設置規則（H30.6.8施行）

参考 R4.4.1 委員名簿

《 意見等 》

【第1号議案】令和4年度事業計画（案）について

No1	意見等の要旨	事務局の考え方
1	<p>【施策5】の高齢者の免許返納において、特に公共交通空白地区に居住する高齢者に対して、免許返納後の移動手段への対応、対策を充実するべきと思う。今後の5～10年は団塊の世代が75才から80才をむかえ、自家用車以外の移動が難しい際、無理な運転で交通事故の危険が増加する恐れもある。</p>	<p>少子高齢社会の進展により高齢者の移動手段をどのように確保するのが課題となっています。</p> <p>こうした中、地域公共交通は重要な移動手段であり、安心・安全に利用できるため、マイカー利用による交通事故などの防止にも繋がると考えています。</p> <p>また、公共交通空白地区等への対策については、昨年度、タクシー交通を利用したモデルスタディを実施し、移動環境の改善の可能性について調査・研究を行いました。</p> <p>次期計画の策定に当たっては、引き続き、公共交通利用に関する情報発信に努めるとともに、公共交通空白地区等における移動支援についても検討を進めてまいります。</p>

【報告事項 1】伊勢原市地域公共交通網形成計画の達成状況について

No1	意見等の要旨	事務局の考え方
1	<p>福祉タクシーのニーズはどのくらいあるか。利用者（利用したい人）が多いならば、積極的な導入をお願いしたい。現状の台数で対応できているのであれば、徐々にでも良いと考える。</p>	<p>福祉タクシーは、車椅子を備えた車両であり、移動が困難な高齢者、障がい者などを中心とした輸送サービスとなりますが、健常者の乗車も可能となるため、一概に利用者ニーズを特定するのは難しいと思われま</p> <p>す。</p> <p>今後も、少子高齢社会の進展などにより、高齢者の増加傾向が見込まれることから、移動需要の把握に努めるとともに、交通事業者と連携・協力のもと、利用促進に向けた情報発信を行ってまいります。</p>
2	<p>新型コロナ感染症により、公共交通は利用者が大幅に減少したが、全国的な傾向として、バスよりもタクシーの方が稼働率、利用者数ともに低い状況であった。</p> <p>網形成計画の評価指標として、利用者数の変化は、路線バスのみであり、タクシー利用者にとってサービス向上がどのように図れるかの指標があった。P. 40にて現状評価を行い利用者数の大幅な減少を把握されている。</p> <p>次なる地域公共交通の策定において、評価指標として組み込むか否か、是非検討していただきたい。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により最も影響を受けたのは、タクシー事業者でした。これは、飲食店等の時間短縮などにより、夜の利用者が減少したものと考えられます。</p> <p>タクシーは、個別の移動ニーズやバス路線を補完する本市の地域公共交通ネットワークの維持に欠かせない、生活を支える移動手段としての役割を担っています。</p> <p>こうしたことを踏まえ、次期計画の策定に当たっては、評価指標への取り込みについて検討するとともに、本市の実情にあわせた地域公共交通の仕組みづくりを展開していきます。</p>

【報告事項2】伊勢原市地域公共交通に関する市民アンケートについて

No1	意見等の要旨	事務局の考え方
1	<p>アンケートの内容は非常に興味深いものである。</p> <p>今回の報告は中間集計で、回収率が低いので、最終集計の結果を報告願いたい。</p>	<p>第1回協議会では、中間集計としてお示しさせていただきました。</p> <p>最終集計については、第2回協議会にてお示しさせていただく予定です。</p>
2	<p>新型コロナ感染症の影響で利用を控えた方々が with コロナの状況下で、どの程度戻るかに関心があり、(4)①の利用頻度で少なくなった方々について、②の減少理由と③の今後の利用について、クロス集計をしていただき、単純に③の今後の利用において「今よりも多くなると思う」の利用者の特徴を教えてください、需要が本当に回復しそうなのか、以前より控えた人は利用に戻らないのか、等の特徴がわかるかもしれない。</p>	<p>新型コロナウイルスの影響により公共交通の利用者が減少していますが、今後は、減少した利用者をどのように回復していくかが課題となってきます。</p> <p>アンケートの中間集計の結果からは、「利用頻度が減少した」との回答が全体の5割、今後の利用について「今と変わらない」との回答が全体の6割となっていることから、公共交通の利用に対する意識が大きく変化しているものと考えられます。</p> <p>こうしたことを踏まえ、次期計画の策定に当たっては、最終集計により移動需要の変化について正確に把握するとともに、公共交通の利用促進に関する施策を展開していきます。</p>

【報告事項3】次期地域公共交通計画の策定について

No1	意見等の要旨	事務局の考え方
1	<p>生産年齢人口の減少に伴い、公共交通の担い手不足が懸念される中で、公共交通の維持も課題の一つである。</p> <p>これを補う施策として、ICT技術等を活用した自動運転バスの実現に向けた研究や道路環境の整備は必要な視点と考える。</p>	<p>公共交通利用者の減少や、担い手不足などにより、公共交通の維持は大きな課題となっていますが、誰もが利用しやすい交通環境を整備していくためには、公共交通の維持・充実が必要不可欠となります。</p> <p>こうした課題に対応するため、次期計画の策定に当たっては、既存の公共交通の維持・充実を基本としつつ、自動運転や接続バスの導入など、スマートモビリティ社会に対応した交通モードの展開に向け、検討を進めてまいります。</p>

No2	意見等の要旨	事務局の考え方
2	<p>伊勢原市は、これまで「公共交通の極」を作成、利便性向上に取り組まれてきたのは高く評価できる。</p> <p>次なる計画策定においては、鉄道では、積極的に MaaS を推進している。小田急電鉄、そして路線バスおよび タクシーは、神奈川中央グループで 運用されており、他自治体では調整が難しい交通モードを組み合わせた本来の MaaS の運用が行いやすい環境にある。</p> <p>アンケート調査においても、70 才代でも利用はしていないが公共交通情報に関しては知っている方が多く、これも他自治体の高齢者よりスマートフォンの活用を期待できる状況下にある。</p> <p>是非とも、極で提供した個別の QR コードからの個別アクセスを、一元化されたシステムとして運用できるようなシステムへの移行を目指した検討を推進していただきたい。</p>	<p>本市の公共交通は、鉄道(小田急電鉄株式会社)、路線バス(神奈川中央交通)、タクシー(神奈中タクシー株式会社)であり、いずれも小田急グループであることから、他自治体に比べて恵まれた交通環境となっています。</p> <p>次期計画の策定に当たっては、こうした利点を生かすとともに、MaaS などの交通 ICT 技術等の活用も視野に入れながら、誰もが快適かつ円滑に移動ができるような公共交通ネットワークの構築に向けた検討を進めてまいります。</p>